

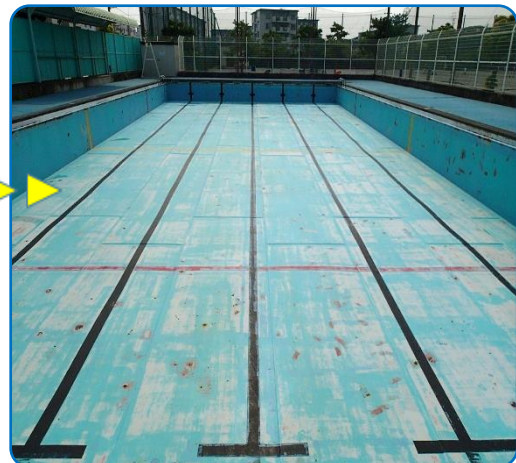
1 学校プールの現状と課題

▼ 老朽化の進行

- ・全施設の7割が設置から40年以上経過している
- ・老朽化が著しく、継続的な使用ができなくなるおそれがある

▼ 利用期間が短い割に、費用や管理の負担が大きい

- ・施設の適切な維持管理や改修にかかる財政上の負担
- ・日常的に水質管理等を行う教職員の負担
- ・今後30年間にかかる維持費は、年間約583万円以上
(1校あたり)



2 集約化の手法 ※全国自治体の取組事例を参考に検討

集約化手法	取組内容	メリット	デメリット
学校間の共同利用	学校プールを複数の学校で共同利用する手法	<ul style="list-style-type: none"> ・維持管理等の費用の軽減 ・管理にかかる作業負担の軽減 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数校での日程調整が必要 ・移動時間の確保、調整が必要
市営プールの活用	市営プール（屋内温水プール）を活用する手法	<ul style="list-style-type: none"> ・維持管理等の費用がかからない ・管理にかかる作業負担がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者等との協議、調整、費用負担が必要 ・移動時間の確保、距離によりバス等交通手段の確保、費用負担が必要
民間プールの活用	民間プール（屋内温水プール）を活用する手法	<ul style="list-style-type: none"> ・季節天候によらず長期間の授業ができる ・管理者等の監視等を受けることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者の都合により、中止等の可能性がある
3手法共通のメリット・デメリット		<ul style="list-style-type: none"> ・プールを解体した場合、跡地は多用途に転用できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業外の学校プールの利用ができない ・プールを解体した場合、プール水の二次利用ができない

これらの手法を、学校ごとの条件や状況にあわせながら、プール集約化を図ります

3 集約化にかかる検討事項

▼ 学校における水泳授業の必要性

- ・学習指導要領に基づき、全校で水泳授業を継続することが必要
- ・海に面する本市の地理的条件を踏まえ、基礎的な泳力を身につける必要性は高い

▼ 水泳授業の時間数の目安

概ね6～10単位時間
(1単位時間：小学校45分、中学校50分)

▼ 移動時間・移動距離の目安

- ・移動距離 徒歩の場合 700m以内
バスの場合 3km以内
- ・移動時間 片道15分程度

4 今後の進め方

それぞれの手法を試行事業として実施し、課題等を整理したうえで、順次、各手法を活用した水泳授業を実施します

令和5年度

各手法による試行事業実施
各校の意向及び条件整理



令和6年度以降

順次、各手法による水泳授業実施

※検討の結果、集約化の対象外となった学校については、引き続き学校プールを使用します